

2022 年 5 月 26 日

2021 年度決算等に関するプレス資料

1. 損益の状況
2. 営業活動の状況
3. 健全性指標
4. 2022 年度の業績予想

1. 損益の状況

○経常収益

売上高にあたる経常収益は、前期比 0.7%増加の 102 億 13 百万円となりました。

貸出金利回低下の影響を受け、貸出金利息収入が減少したものの、預金の増加分および預け金からの預け替え分の有価証券への投資や、低利率の債券の入替等により、有価証券利息配当金が増加した結果、経常収益は増加いたしました。

○経常費用

経常費用は、前期比 2.3%減少の 88 億 99 百万円となりました。

貸出金不良債権処理額の減少に加えて、経費も減少したことにより、経常費用は減少いたしました。

○経常利益、当期純利益

その結果、経常利益は前期比 28.0%増加の 13 億 13 百万円、当期純利益は 11.2%増加の 8 億 41 百万円となりました。

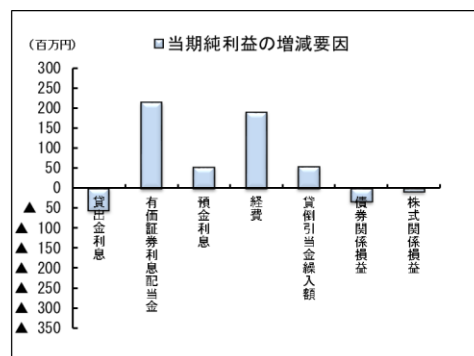
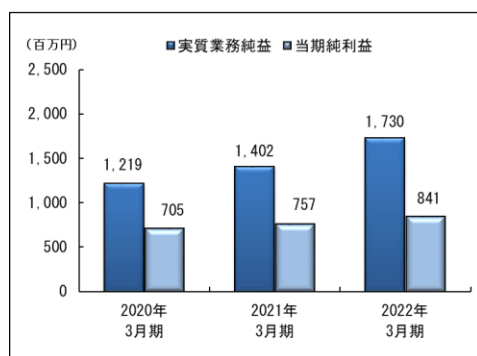
○実質業務純益、資金利益

本業の収益を示す実質業務純益は、有価証券利息配当金の増加や経費の減少等により 23.4%増加の 17 億 30 百万円となりました。

また、資金利益は、2.4%増加の 83 億 89 百万円となりました。

(単位: 百万円、%)

	2020年 3月期	2021年 3月期	2022年 3月期	前期比	増減率
実質業務純益	1,219	1,402	1,730	328	23.4
資金利益	8,003	8,186	8,389	202	2.4
貸出金利息	6,550	6,522	6,467	▲ 55	▲ 0.8
有価証券利息配当金	1,521	1,681	1,895	214	12.7
預金利息	339	286	233	▲ 53	▲ 18.5
役務取引等利益	108	99	3	▲ 96	▲ 96.8
その他業務利益	81	46	78	31	67.7
経費	6,973	6,930	6,740	▲ 190	▲ 2.7
貸倒引当金繰入額	104	378	324	▲ 54	▲ 14.2
経常収益	10,036	10,137	10,213	76	0.7
経常費用	9,136	9,111	8,899	▲ 211	▲ 2.3
経常利益	900	1,025	1,313	287	28.0
当期純利益	705	757	841	84	11.2

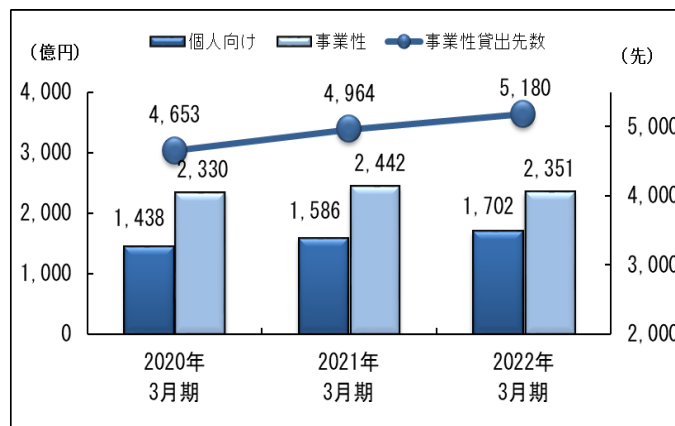
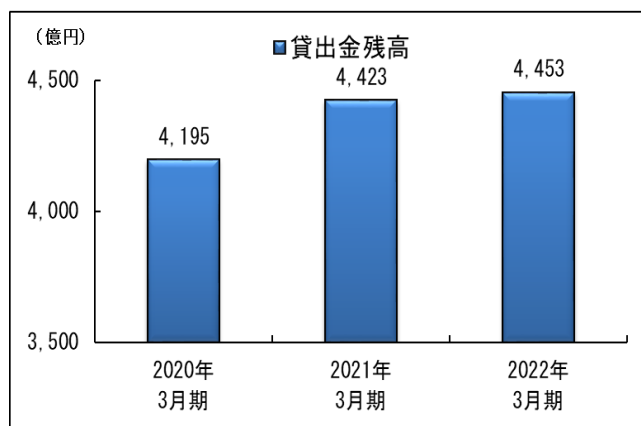


2. 営業活動の状況

○貸出金

貸出金は、新型コロナウイルス感染症の影響により設備投資に係る需要が落ち込み、事業性の貸出金は減少したものの、ローンセンターによる住宅ローンの推進等により、**期末残高は前期比 0.6%増加の 4,453 億円となり、9期連続で増加**しました。

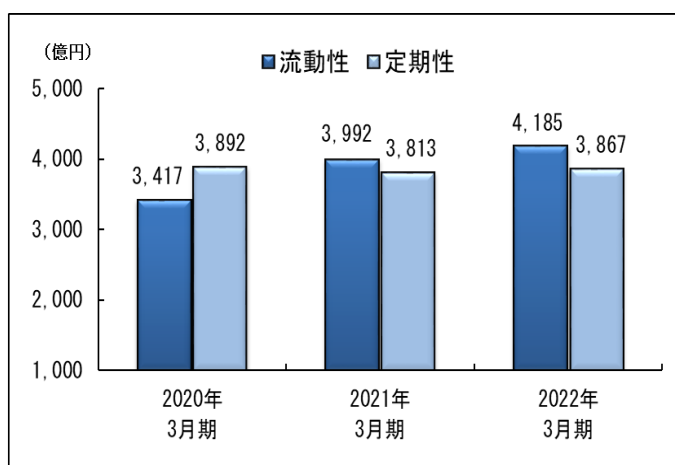
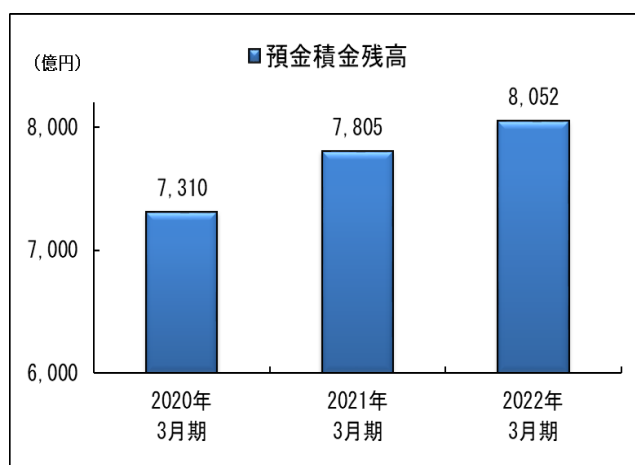
事業性の貸出先数は、広島地区における新規開拓活動の強化等により、**4.3%増加の 5,180 先**となりました。



※ 事業性貸出先には、地公体、金融機関向け貸出を含んでいません。

○預金積金

預金積金は、給与・年金振込や口座振替、インターネットバンキング契約の推進に加え、「インターネット支店開設 4 周年記念定期預金」を発売するなど、積極的な営業活動に取り組んだ結果、**期末残高は前期比 3.1%増加の 8,052 億円と 5期連続の増加**となりました。

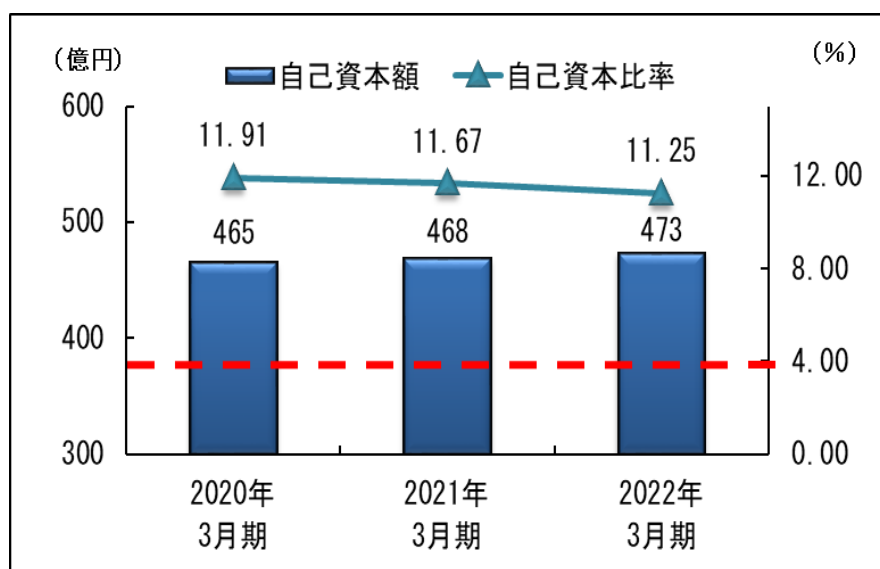


3. 健全性指標

○自己資本比率

自己資本額は前期比 1.0% 増加した一方、リスク・アセット等が 4.8% 増加したことにより、自己資本比率は 0.42 ポイント低下し 11.25% となりました。

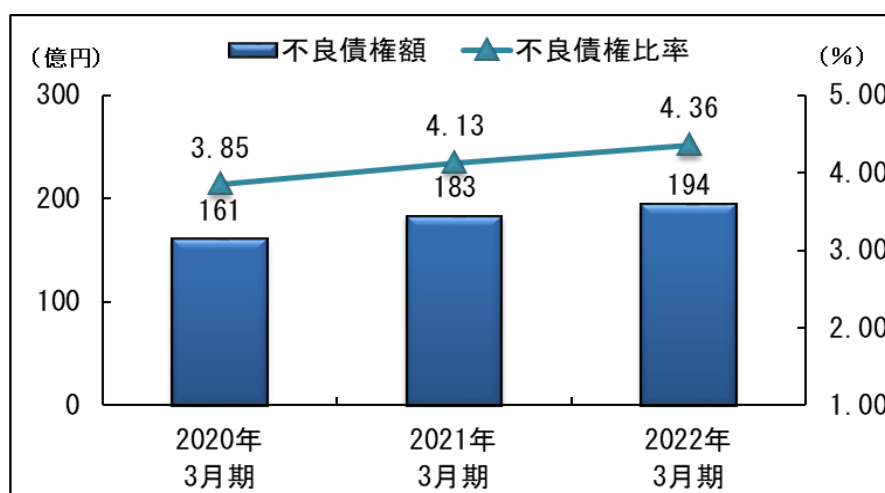
これは、国内業務のみを行う金融機関に必要とされる基準（4%）を大幅に上回っており、健全性に問題はありません。



○不良債権比率

新型コロナウイルス感染症の影響を受けている方々に対し、積極的な資金繰り支援を実施した結果、不良債権額は前期比 6.4% 増加の 194 億円、不良債権比率は前期比 0.23 ポイント上昇の 4.36% となりました。

なお、これらの不良債権は、担保や貸倒引当金等で適切に保全を図っており、備えは万全です。



4. 2022 年度の業績予想

○経常収益

役務取引等収益は増加を見込んでいるものの、貸出金利息収入や、預け金利息収入等の業務収益の減少、償却債権取立益や株式等売却益等の臨時収益の減少により、経常収益は前期比 2.0%減少の 100 億 2 百万円を見込んでいます。

○経常費用

役務取引等費用は増加を見込んでいますが、引続き経費削減などを進めることにより、経常費用は前期比 3.0%減少の 86 億 31 百万円を見込んでいます。

○経常利益

その結果、経常利益は前期比 4.3%増加の 13 億 71 百万円を見込んでいます。

○当期純利益

当期純利益については、法人税等の増加により、前期比 20.8%減少の 6 億 65 百万円を見込んでいます。

○実質業務純益

なお、本業の収益を示す実質業務純益は、前期比 1.6%減少の 17 億 1 百万円を見込んでいます。

○2022 年度経営計画

2022 年度においても、お客さまや地域の課題解決に向けた伴走型のお客さま支援を実践することにより、地域金融機関としての役割を果たしていきたいと考えており、預金積金残高は 8,040 億円、貸出金残高は 4,583 億円（10 期連続の増加）を計画しています。

（単位：百万円、%）

	2022年 3月期	2023年 3月期	前期比	増減率
実質業務純益	1,730	1,701	▲ 29	▲ 1.6
資金利益	8,389	8,340	▲ 48	▲ 0.5
貸出金利息	6,467	6,400	▲ 66	▲ 1.0
有価証券利息配当金	1,895	1,900	4	0.2
預金利息	233	212	▲ 20	▲ 8.8
役務取引等利益	3	▲ 13	▲ 16	▲ 521.7
貸倒引当金繰入額	324	330	5	1.8
経常収益	10,213	10,002	▲ 211	▲ 2.0
経常費用	8,899	8,631	▲ 268	▲ 3.0
経常利益	1,313	1,371	57	4.3
当期純利益	841	665	▲ 175	▲ 20.8

以 上